

「第15回光物性研究会」のご案内

研究会 開催日：2004年12月 3日(金)、4日(土)

開催場所：京都大学“百周年時計台記念館”2階 国際交流ホール

京都大学吉田キャンパス内、〒606-8502 京都市左京区北白川追分町、

企業 展示会：同 2階 国際交流ホール ポスター発表・展示会場

(会場へのアクセス情報をご参照下さい。)

論文投稿締切日：2004年11月 2日(火)17:00まで (必着)

参加費振込期限：2004年11月 2日(火)(参加費の振り込みが参加登録となります)

この日以後の投稿・参加登録は参加費が高くなりますと共に、論文集印刷の日程上、投稿論文掲載、参加者リストの氏名掲載などが出来ませんのでご注意ください。

研究会の概要：

本研究会は、1990年より始まり、今年で15回目を迎えます(その内'95,'96は光物性アジアシンポジウム)。今年度の研究会では、昨年と同様に特にテーマを設定せず以下の諸課題を中心に広く議論することを趣旨としております。これは、比較的研究会の機会が少ない関西地区を中心とした会場で、多岐にわたる光物性およびその関連分野の若い研究者、院生・学生に発表と討論の機会を提供し、研究者間の交流、情報交換の場となることを研究会開催の主な目的としているからです。そのために、十分に時間をかけて自由に討論できるポスター発表を研究会の中心に据えています。また、全てのポスター発表には、SHORT PRESENTATION (3分程度)が付随します。今回は、2名の特別講師(うち1名はチュートリアル講演)をお招きした特別講演も企画しております。

本研究会では貴重な研究成果をまとめた「論文集」を毎年蓄積していくことも、特徴となっています。活気ある議論ができますよう、また全国の研究室の若い方々の継続的な交流の場として機能できますよう、研究者、院生・学生の皆様の積極的なご参加を募ります。

なお、本研究会は基本的には参加者の方々の会費と、多くのご協賛下さる企業からのご支援で運営されています。会場では、毎回ご協賛頂いております企業による、機器などの展示会を同時に行っており、そこでは企業の方々と交流も図られております。また、関連企業からの装置・器具・機器・ソフト・教育・イベントなどの最新情報も頂けます。

なお、初日の12月3日(金)には、懇親会も計画しておりますので、ふるってご参加下さい。

課題：

励起子-ポラリトン、超高速光学過程、非線形光学現象、コヒーレントな電子と光子、低次元系の光物性、ナノ構造物質による光機能制御、局在状態の光物性、磁性物質の光物性、光エレクトロニクス材料への応用、新規物質の光物性、光化学反応、光生化学応答、光合成関連現象、生体物質の光学過程、導電性高分子の光物性、光誘起相転移・構造変化現象、励起子ポーズ凝縮、フォトニック結晶、強相関係の光物性、量子光学及び量子コンピューティング関連現象、新しい分光法、試料作成技術、その他。

招待講演：

本研究会では、光物性分野に関係が深く、また今後の光物性研究の発展にとって大いに参考になると思われる研究課題をとりあげて、その分野で最先端で活躍されている講師をお招きして、特別講演を企画してきました。さらには、昨年度から光物性研究に不可欠な各種知識・技術に関するチュートリアルな特別講義の導入を行い、本年度もそのような講義を計画しております。

発表の形式:

発表形式はポスター(縦180cm横90cm)発表とし、口頭講演は特別講演のみとさせていただきます。各ポスター発表につき“3分間(厳守)”のShort Presentation(口頭発表)を行いますので、OHPでの発表をご用意下さい。

論文集:

論文集を発行いたしますので投稿をお願い致します。作成にあたっては下記の形式を守って下さい。本年度からAcrobat PDFファイルによる投稿を受け付けます。尚、印刷・製本のスケジュールが大変厳しい状況ですので、締切日より到着が遅れた論文は、論文集に掲載できませんのでご注意下さい。

記

論文投稿締切日: 11月 2日(火)17:00まで (必着)

論文原稿: 印刷原稿 2部(オリジナル原稿とそのコピー。いずれもお返しできません。)もしくは、**Acrobat PDFファイル**(「[PDFファイルによる論文原稿の受付](#)」をご参照下さい。)

論文形式:

原稿はそのまま印刷されます。論文の用語は、英語あるいは日本語とし、日本語の場合には論文標題、所属、著者名、要旨に英文を付けて下さい。原稿枚数はA4用紙4枚以内で、上部と左右及び下部のいずれにも3cmの余白をとり、ページ番号(印刷原稿の場合は、裏面に1~4の番号を鉛筆にて記入して下さい)はつけないで下さい。内容、形式について著しく不十分な論文は論文集に掲載できないことがあります。論文形式の例を同封していますので、できるだけその形式に基づいて作成して下さい。尚、段組形式は1段組、2段組どちらでも結構です。

プログラム編集上で必要なため、10月27日(水)までに投稿論文名、著者名、及び所属名のオンライン論文登録を必ず行って下さるようご協力下さい。詳細はWebページに掲載しています。

論文送付先: 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

大阪市立大学 大学院理学研究科 光物性研究室 Tel. 06-6605-2527, Fax.06-6605-2522
唐沢 力、E-mail: hikari@sci.osaka-cu.ac.jp

(注) 郵送される方は、本学の郵便受け制度の事情から、必ず「速達便」として下さい。

参加費: (参加費の振り込みをもって参加登録となります。)

11月 2日(火)まで、学生・大学院学生: 3,000円、 その他(所得受給者): 5,000円

11月 3日(水)以降、学生・大学院学生: 4,000円、 その他(所得受給者): 6,000円

尚、11月2日(水)以降の参加取り消しの場合は、参加費の払い戻しができません。

懇親会 12月 3日(金) 研究会会場にて

会費: 3,500円 懇親会ご出席の方は、必ず参加費と一緒に懇親会会費を振り込んで下さい。

参加費の振込: 同封の専用振込用紙を用いてお振り込み下さい。

参加費振込をもって参加登録となります。参加者リストを作成するために、振込者の所属・研究室名、所属の住所、電話・Fax番号、E-mailアドレス、を通信欄に明確にご記入下さい。学生の場合は、学年(M2等)および研究室名、の記入も合わせてお願いします。これらは参加者リストとして論文集に印刷されます。また、懇親会に参加される方は、懇親会会費を参加費に加算のうえ、通信欄に「懇親会参加」と明記下さい。

一枚の振込用紙で複数名の登録も可能ですが、全ての登録者に関する、上記事項の記入をお忘れ無きようお願いいたします。

振込先: 郵便振替 口座番号 0930-8-31413 口座名義 「光物性研究会」

Webページ:

本研究会のWebページアドレスは次の通りです。研究会の詳細な情報は、Webページの「光物性研究会」をたどって頂ければご覧頂けます。 <http://www.soc.nii.ac.jp/camp/>

お願い:

大学からの参加の方には、経費節減のため、ポスタ - 会場の設営、会場での世話係、休憩時の湯茶のサービス、庶務的雑用、会場の後片付けなどにご協力をお願いいたします。尚、留学生の方の参加費については、援助を予定しております。

会場へのアクセス・宿泊施設:

「[第15回光物性研究会 会場と会場へのアクセス](#)」と「[第15回光物性研究会 会場近くの宿泊施設](#)」をご参照ください。

旅費の補助:

遠隔地からの参加者に可能な範囲で旅費の補助を考えております。補助ご希望の方はその旨を参加登録時記載されるか、または研究会当日以前に唐沢までお知らせください。

光物性研究会 組織委員会

組織委員長:唐沢 力 (大阪市立大学 大学院理学研究科)

組織委員: 瀬川 勇三郎 (理化学研究所フォトダイナミクス)、 石原 照也 (東北大学大学院理学研究科)、

末元 徹 (東京大学 物性研究所)、 嶽山 正二郎 (東京大学 物性研究所)

武田 淳 (横浜国立大学 工学部)、 田中 耕一郎 (京都大学 大学院理学研究科)、

金光 義彦 (京都大学 化学研究所)、 伊藤 正 (大阪大学 大学院基礎工学研究科)、

石原 一 (大阪大学 大学院基礎工学研究科)、 枝松 圭一 (東北大学 電気通信研究所)、

小川 哲生 (大阪大学 大学院理学研究科)、 萱沼 洋輔 (大阪府立大学 工学部)、

赤井 一郎 (大阪市立大学 大学院理学研究科)、 中山 正昭 (大阪市立大学 大学院工学研究科)、

高木 芳弘 (姫路工業大学 理学部)

これまでにご支援・協賛を頂いた企業名:

愛宕物産株式会社、安達新産業株式会社、岩谷瓦斯株式会社、イワタニプランテック株式会社、エクセルテクノロジー株式会社、大阪真空工業株式会社、沖電気工業株式会社、オックスフォード・インスツルメンツ株式会社、オプトフォーカス株式会社、オリンパス光学株式会社、株式会社インデコ、株式会社エピックエスト、株式会社キモトサイン、株式会社共溶材、株式会社相馬光学、株式会社ダスキン、株式会社東栄製作所、株式会社東芝、株式会社東理社、株式会社フォトンデザイン、株式会社堀場ジョバンイボン、株式会社ルケオ、株式会社ユニタック、株式会社ルミネックス、株式会社日本レーザー、株式会社日本ローパー、関西日本電気ソフトウェア株式会社、関西日本電気株式会社、関西三菱電機プラントサービス株式会社、コヒレント・ジャパン株式会社、技術研究組合フェムト秒テクノロジー研究機構、極東産機株式会社株式会社、光研工業株式会社、三協電精株式会社、三洋電機株式会社、シグマ光機株式会社、島津理化器械株式会社、新王子製紙株式会社、スタンレー電気株式会社筑波研究所、スペクトラ・フィジックス株式会社、住友電気工業株式会社播磨研究所、西進商事株式会社、セキテクトロン株式会社、大研化学工業株式会社、大日本スクリーン製造株式会社、タツミ産業株式会社、東京エレクトロン株式会社、東芝タンガロイ株式会社、ナガセ電子機器サービス株式会社、仁木工芸株式会社、日本ガイシ株式会社、日本測器株式会社、長谷虎紡績株式会社、浜松ホトニクス株式会社、阪神電気鉄道株式会社、分光計器株式会社、HOYAコンテニューム株式会社、丸文株式会社、松尾電機株式会社、松下電器産業株式会社、松下電器株式会社中央研究所、三菱電機株式会社、三菱電機マイコン機器ソフトウェア株式会社、三菱電機セミコンダクタソフトウェア株式会社、三菱スペースソフトウェア株式会社、三菱電機セミコンダクタシステムエンジニアリング株式会社、理化学研究所、レオニクス株式会社、ローム株式会社、ATR環境適応通信研究所、TDK開発研究所、村田学術振興財団、関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団、赤穂市、財団法人泉科学技術振興財団